

28 澤田美喜のキリシタン収集品

信仰守る姿 心の支えに

苦難の中 孤児の養育に尽力

キリシタン信仰を示すと鑑定された日本刀の鐔の展示が始まって1カ月余。大磯町の澤田美喜記念館には多くの人が全国各地から足を運んでいる。巧妙に細工された鐔からは厳しい禁教の時代を生き抜いた信仰の強さが伝わってくる。

「これは当初、見落としてしまったものです」
鑑定した中西祐彦さんが示した鐔には、網を引く漁師の姿が浮かんでいる。

「よく見ると左の胸に金色の十字があるのです」
ルーペでのぞくと確かに小さな十字が光っている。

637年の島原の乱の後は一段と苛烈になる。
NPO日本刀剣保存会（事務局・東京）理事の中西さんは数方枚の鐔を見てきたというが、「こんな物は初めてです」。作風、素材をもとに中西さんはこの鐔を禁教後の17世紀の作だと分析。〈隠れキリシタンの信仰を示すと見る。禁教前はキリシタンであることを隠しますが、禁教後は一目では分からない巧妙な図柄に変わります。江戸幕府も迫害し、1



17世紀の作だという鐔には漁師の姿があり、胸には小さな十字が光る。澤田美喜＝澤田美喜記念館提供



17世紀の作だという鐔には漁師の姿があり、胸には小さな十字が光る。澤田美喜＝澤田美喜記念館提供

す。工人もキリシタンでないとい作れないでしょうね」
この図柄を学校法人関東学院の小河陽学院長（聖書学）は「エイエスが漁師（ペテロを弟子にした）」という聖書の教えにちなむものと考える。「単なる日本風の漁師に見えますが、信者なら〈漁師＝イエスの弟子の象徴〉とすぐわかるはずですよ」。漁師の足元には4匹の魚が描かれているが、4には〈隅々まで〉の意味があるとい、〈世界の隅々＝日本にまで〉を隠喩するのではと思いをめぐらす。



記念館は児童養護施設工リザベス・サンタース・ホームの創始者澤田美喜（1901～80）のコレクションを収蔵する。美喜は三菱財閥を築いた岩崎弥太郎の孫として生まれ、外交官の澤田廉三と結婚。熱心なク



リスチャンだった。記念館の西田恵子さんによると、コレクションを始めたのは1936年。米国から戻る船上で隠れキリシタンを紹介する本を読んだのがきっかけだった。帰国すると九州に出かけた。キリシタンの遺物が大切にされることなく散在していることを知り、「このままでは失われてしまう」と収集に乗り出した。岩崎家の財力を背景に、踏み絵やマリア像、禁制の高札といった品々が集まり、コレクションを紹介する本を41年に出している。

だが敗戦で立場は大きく変わった。財閥解体や財産税で資産を失う。そうした時に、占領軍の兵士と日本女性の間に生まれた赤ちゃんが捨てられるのに心を痛め孤児の養育を思い立つ。大磯の岩崎家の別荘を買い戻し、48年にサンタース・ホームを創立した。苦難の連続だった。絶大な権力の米軍がその活動を嫌った。米兵の悪行を表面化させ、反米感情をおおるものと見なした。日本側も好意は示さなかった。〈敵国の子ども〉とか〈日本女性の恥〉と嫌悪感を示す人が多かった。孤立無援の戦い。カーテンを外しておしめにした。おわんや器に始まり庭木や庭石、灯籠も売り払った。高価な銀のポット、皇室から拝領の花瓶も処分。ミルクを温める薪がないと聞くのと、ためらわず茶室をつぶしたとの逸話も残る。しかし、どんなに困っても手放さなかったのがキリシタン遺物だった。その思いをこう記している。「失望と悲嘆と涙と怒りの時、私に光と希望と忍耐を与えてくれました」私よりもっと厳しい苦難の中で信仰を守った先人がいた。集めた遺物は美喜の心の支えとなった。キリシタンの遺物は約千点。そのうち367点あった刀の鐔は未整理だった。小西さんが昨年11月から半年がかりで調査し、48点をキリシタン鐔と鑑定した。「信仰半分、意地半分」との言葉を美喜は残している。展示された鐔にこもるのは隠れキリシタンの信仰だけではない。孤児の姿に目を閉ざし、ないものにしてしまいたい権力者や社会の風潮に対し、それを絶対に看過できなかった美喜の強い思いが伝わってくる。澤田美喜記念館（電話0463・61・4888）はJR東海道線の大磯駅前。開館は午前10～午後4時。月曜休館。（渡辺延志）

日莫京のクマ主宅也こ

軒の庭先などをそのまま走り抜けたという。市職員と猟友会が目撃現

設置した。市水みどり環境課によると、15年度の目撃情報は3

件で、今年度は17日までで9件を数えている。（白石陽一）

センターで開く歴史文化展示会で紹介されている。南足柄市和田河原の田代